て変らず操業上支障を来たすまで調べであつた。当漁場及び近一帯の海底形態は南西と全く異なり水深２００～３００ｍ迄緩やかな傾斜となりまの斜面上には起伏が極めて少なかつた。操業は水深７０～１２０ｍの海底に起伏のある漁場を選定し実施した其の回航水深で漁獲されたメダイ１９尾　青タイ４尾　大くちいしもびき２尾　黒まぐろ２尾　其の他若干であり時々ヒメタイの幼魚が混多く釣獲され同魚の産卵地じやないかとも考へられる。

１月２３日　（第８回目）

天候益々悪化し操業不可能な状態となり漁場変更の止むなきに至つた。パラセルではリーフの風下で避難泰々操業は出来るが第６３日の状態では無意味な調査に過ぎないものと判断されるのでフイリツピン群島のパラワン島西部１００浬海岸を調査することにして南下した。

１月２４日　南下航走中

１月２５日

新南群島北部　lat 12°—11'N　long117°—36'E 附近で新漁場としての適否把握のため約１００枚投じて調査して見たがキハダ２尾　メバチ２尾　メカジキ１尾の漁獲に終つた。

１月２６日～２８日（第９～１１回）

パラワン島西部 lat10°-52'N long　118°—46'E

海図によると当地附近には独立した島嶼が少なく只水深　１１１ｍと１８８ｍと記された小さい島嶼が二ヶ所に点在する丈である北の両島嶼を探索するに数時間努力したが発見することが出来ず前記位置附近の１００尋線に沿うた場所及び岡曲部辺りで朝流潮流の上操業する外はなかつた為しながら島地につながる漁場が余りにも範囲が広く手漁場も点在するものと思考されるが探索するにはそれ相当の日数と労を要するであろう。今回は三日間で延３９回投縄し漁獲物はヒメタイ４２尾　同小型魚（１kg内外）３５尾　幼魚若干、メバル２０尾　大くちしもびき４５尾　ハマダイ２尾　ドンニ（ヒラマチ）２９尾　アニタイ６８尾　其の他青タイ、青サビキ、ヒメカルミ等漁獲され一本針漁業の対象魚族は殆んど捉息していることが今調査で判明された訳であるが大量生産ができなかつたことは遺憾に堪えない。

６　漁場探定（マックレスフイールドバンク）

２００ｍ等深線に沿う周囲は２００浬を越え殆どは前述のとおり浅瀬が点在しており漁場の範囲がかなり広い。然るに２００ｍ等深線附近は水深の変化が激しく更に急斜面となつており「マチ」属の捉息も北の海域に群棲している模様であつたので斜面を利用する操業が一番良策だつた。

なお　処によつては魚族による漁具の損失が多かつたので次回からはこれ等魚類に対応出来る漁具　強も大切な事だと思つた。

７　マックレス　フイールドバンクに於ける魚種別釣獲率

当漁場では積々荒足に操業した日が３日間で後半の４日間は天候に恵まれ充分操業できなかつた。総漁獲高８８８尾で其の中大くちいしもびきが４２６尾で全漁獲高の４７９７％を示しヒメタイ３０２尾で３４％メバル６４尾で７２０％　平鯵５０尾で６５３％　ハマダイ１６尾で１８０％の漁獲割合となつており他に青タイ、青サビキ、鰹マグロ、メイチダイ、タカビダイ、アラ等若干釣獲された。

５　魚体測定

今回はヒメタイ１５尾、大くちいしもびき１５尾を測定した。結果は下表の通りで平均体